

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果

## 1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段）

調査項目	地域 年度	阿 賀 野 市						
		19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年	26年
国語A：知識		▼99	▼99	▼98	▼99	▼98	△101	▼98
国語B：活用		100	▼98	▼97	▼99	▼98	▼99	100
算数A：知識		▼99	▼99	▼98	▼99	▼98	△101	100
算数B：活用		▼98	▼98	▼98	▼98	▼98	100	▼98
理科		*	*	*	*	100	*	*
国語A：知識		14.4 / 18	11.3 / 18	11.9 / 18	12.1 / 15	13.3 / 17	22.2 / 32	10.5 / 15
国語B：活用		6.2 / 10	5.6 / 12	4.4 / 10	7.6 / 10	5.5 / 11	4.8 / 10	5.6 / 10
算数A：知識		15.4 / 19	13.5 / 19	13.4 / 18	13.8 / 19	13.3 / 19	15.1 / 19	13.2 / 17
算数B：活用		8.4 / 14	6.2 / 13	6.9 / 14	5.4 / 12	7.0 / 13	7.6 / 13	7.1 / 13
理科		*	*	*	*	14.5 / 24	*	*
調査対象		全校	全校	全校	抽出	抽出(*)	全校	全校

（△全国より上位、▼全国より下位）

（\*）抽出校に加え、市費対応で全校調査を実施

## 2 標準化得点における傾向と分析

- （1）標準化得点では、全国と比べ、国語A（知識）、算数B（活用）において2ポイント下回っている。国語B（活用）、算数A（知識）については全国平均とのポイント差はない。24年度の段階で、19年度からの低下傾向（22年度は抽出校調査であり、比較から除外）に歯止めがかかり、前年度（25年度）には、さらに上昇し全国平均を上回る成績を示したが今年度はこれに比べるとやや低下（2項目で低下、1項目で向上）している。
- （2）平均正答数では、全国と比べ、国語A（知識）で0.4問下回り、国語B（活用）は0.1問上回っている。算数A（知識）で0.1問下回り、算数B（活用）で0.5問下回っている。やや低下してはいるが、最大で0.5問の差に止まっている。

## 3 児童質問紙調査に見られる課題と対応 ～学力の向上と学習・生活習慣の育成に向けて～

### （1）学ぶことが好きな児童にするために

#### ①学習に対する関心・意欲・態度

市小学校児童の学習に対する関心・意欲・態度は良好な状況を堅持している。国語・算数のいずれの教科の意識調査においても全項目で全国平均を上回っている。かつては、他項目が全国平均を上回っても、「教科（国・数）の学習が好き」という項目は、全国平均を下回る状況が続いていた。内容が分かり、学ぶことが好きになってこそ長期にわたる学力向上も期待できることから、この問題の解決こそ重要と考えてきた。前回の調査で、初めて国語科はこの項目も全国平均を上回り、今回の調査で、初めて算数科も全国平均を上回った。学習に対する関心・意欲・態度は一層の向上を遂げている。

#### ②授業改善の推進

各小学校は、それぞれ自校の学力実態を分析し、研究主題を設定して授業の改善に真摯に努め続けている。その取組の成果は、学力調査・質問紙調査のいずれにも反映されている。今回は、検査数値にやや低下が現れているが、授業改善の取組に緩みはない。国語・算数それぞれの領域別・設問別の分析からも、今後回復し向上に転じる性質のものだと判断している。各校の授業の質的改善への取組を市教育委員会としても引き続き支援していきたい。

### （2）家庭での過ごし方と学習習慣の改善のために

#### ①生活習慣

早寝・早起きや朝食など健康的な生活習慣についてはいずれもほぼ全国平均と並んでいる。これまでのやや優位な状況は薄れているが、望ましい状況にとどまっている。

課題は、家庭での時間の過ごし方にある。テレビ、DVD、ゲームなどメディアに費やす時間が全国平均に比べて明らかに長い。長時間視聴（4時間以上と3時間以上の合計）が児童全体の46.9%で前年度よりさらに増加している。児童の生活時間を圧迫していることは明らかで、これでは家庭学習や読書に十分な時間を確保することも難しい。家庭と学校が連携・協力してメディアコントロールに取り組むことが不可欠な状況となっている。

#### ②学習習慣

各学校の継続的な取組により、年々家庭学習の状況は向上している。平日の家庭学習時間は「2時間以上」では全国平均を下回るが、「1時間以上2時間以内」では全国平均を30%以上上回る実施率である。これは、全ての小学校で「学年×10分」の家庭学習が強力に指導されてきたことの効果といえる。今年度は「学年×10分+10分」を目指す学校も増えてきている。家庭学習時間の拡大を目指すとともに学習内容の質を高めていく時期を迎えている。

一方、家庭での読書時間は全国平均に比べて明らかに短く、図書館の利用頻度も少ない。新築された水原中学校内に市民図書館も新設され、一層読書環境は整えられている。学校・家庭・地域それぞれの立場から読書習慣の向上に取り組みたい。



平成26年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果

1 標準化得点（上段）と平均正答数（下段）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市						
	19年度	20年度	21年度	22年度	24年度	25年	26年
国語A：知識	▼98	▼98	▼98	▼99	▼97	▼96	▼99
国語B：活用	▼99	▼98	▼97	100	▼96	▼96	▼99
数学A：知識	▼97	▼97	▼96	▼98	▼96	▼94	▼96
数学B：活用	▼98	▼98	▼97	▼98	▼95	▼94	▼96
理科	*	*	*	*	▼96	*	*
国語A：知識	29.5 / 37	24.0 / 34	24.1 / 33	26.1 / 35	22.4 / 32	22.2 / 32	25.2 / 32
国語B：活用	6.9 / 10	5.6 / 10	7.6 / 11	6.6 / 10	5.0 / 9	5.1 / 9	4.3 / 9
数学A：知識	23.7 / 36	19.6 / 36	18.2 / 33	22.4 / 36	19.8 / 36	18.2 / 36	21.3 / 36
数学B：活用	9.3 / 17	6.5 / 15	7.3 / 15	5.7 / 14	5.8 / 15	4.5 / 16	7.7 / 15
理科	*	*	*	*	11.2 / 26	*	*
調査対象	全校	全校	全校	抽出	(*)抽出	全校	全校

(△全国より上位、▼全国より下位)

(\*) 抽出校に加え、市費対応で全校調査を実施

2 標準化得点における傾向と分析

- (1) 標準化得点では、全国と比較して国語A・Bで1ポイント、数学A・Bで4ポイント下回っている。抽出校調査であった22年度を除くと、調査の開始された平成19年度以降年々低下する傾向が続いており、前年度(25年度)は、調査開始以来、最も低い得点となっていた。今年度は、これに比べると国語A・Bで3ポイント、数学A・Bで2ポイントの回復を示している。
- (2) 平均正答数では、国語の知識で0.2問(前年度は2.2問)下回り、設問数の少ない国語の活用で0.3問(前年度は1問)下回っている。数学の知識では3問(前年度は4.7問)下回り、数学の活用で1.3問(前年度2.1問)下回っている。いずれの調査項目においても正答数の回復が現れている。

3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応 ～学力の向上と学習・生活習慣の育成に向けて～

(1) 学ぶことが好きな生徒にするために

①学習に対する関心・意欲・態度

市中学校生徒の学習に対する関心・意欲・態度には、明らかに改善の傾向が現われている。これまでは2～3の項目を除き、ほとんどの項目で全国平均を下回る状況が続いていた。今回の調査では、「授業の内容が分かる」など注目すべき項目をはじめ多くの項目(国語科で10項目中8項目、数学科で11項目中6項目)で全国平均以上となっている。「教科(国・数)の学習が好き」は全国平均を上回るには至らないもののこれまでで最少の僅差に迫っている。

②授業改善の推進

教科(国・数)の学習が好きでない状況が続けば、意欲は低下し、関心も態度も低下する。内容が分かり、学ぶことが好きになるよう、一人一人の生徒に確かな学びを保障する授業改善に取り組むことを課題とし続けてきた。授業で知的な成長を実感できれば意欲は急速に回復できる。こうした認識のもとに各中学校は授業改善に着手し、市教育委員会もこの取組が実を結ぶよう支援してきた。改善の傾向が一層確かなものとなるよう推進に努めたい。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善のために

①生活習慣

定時就寝・定時起床や朝食など生活習慣としての規則正しさは維持されているが、就寝・起床の時刻は遅く、睡眠時間の不足も現われている。最大の問題は、生活時間の多くがテレビ、DVD、ゲームなどメディアに費やされていることにある。長時間視聴(4時間以上と3時間以上の合計)は前年度よりさらに増加し、携帯電話・スマートフォンの長時間使用も急増している。この生活状況では、家庭学習や読書の時間の確保は困難であり、家族との関わりや睡眠時間までも圧迫される。小学校以上にメディアコントロールに取り組む必要性は高い。

②学習習慣

市の中学校生徒の家庭学習時間は、全国平均を下回るだけでなく、市の小学生のそれをも大きく下回っているものの今回の調査では改善の兆しが現われている。この兆候を確かな改善に仕向けるためにも、授業と関連づけた課業(宿題)として強制する形であってもさらに実施率を高めたい。同時に中学生にふさわしい量と質の確保に努め、本来あるべき姿を実現したい。家庭での読書時間は短く、図書館の利用頻度も少ない。読書は生活に位置づいているとはいえない。しかし、水原中学校内に市民図書館も新設され、読書環境が一層整備されたことから、次第に中学生の図書館利用は増してきている。今後も、学校・家庭・地域それぞれの立場から読書習慣の向上に取り組みたい。